**第２学年3組　国語科学習指導案**

平成30年1月26日（金）第2校時

授業者　教生　入倉　楓　印

指導教員　吉野　竜一　先生

**1 単元名・教材名**　知っていることとつなげて読もう　「おにごっこ」

**2 本時の学習指導（本時3／3時）**

（1）目標

　○児童の身近な遊びを題材に、はじめ、中、終わりを意識した文章を作ることで、

文章の構造を理解する。

（2）評価規準（1時間の授業に即した具体的なもの）

|  |
| --- |
| ウ　書く能力 |
| 文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書けている。 |

（3）展開（○は指導上の留意点・工夫　　　　内は評価を表す）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 学習内容 | 指導と評価の創意工夫 | 時間 |
| 1 本時の学習課題をつかむ。  どうしたら　遊びの良さが伝わるだろう  2文章構成の確認をする。    ・問い→はじめ  ・遊び方や理由→なか  ・まとめ→おわり  3おわりの文章の特徴について考える。  4文章を書く。  5書けた文章を他の児童と共有する。  6本時のまとめを行う。 | ・本時の学習課  　題  ・前時までの学習内容の振り返り  ・おわりに（まとめ）の表現  ・文章の型（はじめ・中・終わり）  ・文章の多様性  ・本時のまとめ | ○学習の課題を示し、声に出して読むことで、ねらいを明確化する。  ○前時までの学習内容（問いははじめにあること、遊び方や理由はなかにあること、まとめは終わりにあること）の振り返りを行い、文章の型を理解できるようにする。  ○問いの特徴的な表現と関連させながら（問い「どうして～でしょうか？」）、まとめの文章の形式段落と、特徴的な表現について確認し（6段落目、「このように」）、説明文の流れを理解できるようにする。  ○近くの人と、おわりの特徴について話し合うことで、理解を深められるようにする。  ○前時で考えた遊びとその理由に、問いとまとめを付け加え、文章を書いてみることで、文章の型の理解を深めることができるようにする。  ○問いから順に文章を書いていけるようにする。  ○問いを書きだせていない児童を中心に、問いと答えを教科書で確認しながら、問いを書けるように机間指導を行う。  ◎評価ウの・文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書けている。（ノートの記述）  ＜手立て＞  ・なかなか書きだせない児童は、教師と一緒になかで書いていきたい文章の確認を行い、その文章に導いていくにはどんな問いを書けばいいのか考える。  ・問いを書けた児童は、なか、まとめと書き進めていく。  ○問いを中心に、他の児童の文章の書き方を見てみることで、様々な表現方法があることを知ることが出来るようにする。  ○児童の言葉を拾いながら、文章を分かりやすく魅力的に伝えるには、はじめ、中、終わりを意識してまとめは終わりの段落にあり特徴的な表現があることをまとめる。 | 5  5  5  15  10  5 |

**7 備考**在籍児童数　35名

**8 板書計画**

一月二十六日　「おにごっこ」

問い→はじめ

　あそび方、りゆう→なか

　まとめ→おわり

　　第６段落　「このように・・・」

たとえば

　「ドッジボール」

　　ドッジボールは・・・

　はじめ　　どんな～～でしょう。

　　　　　なぜ～～でしょう。

　　中　　　あそび方の一つに～～。

　　　　　なぜなら、～～。

　おわり　　このように、～～。

文しょうを書くときには、

　はじめ、中、おわりに気をつけてかくと

　よさをつたえることができる。

どうしたら　あそびの良さが

つたわるだろう